

平成11年度

稻作情報 浜通り版
第4号

平成11年7月16日

「ふくしま新世紀農業・農村確立運動」県推進本部

発行：福島の米稲作情報編集会議

編集：福島県農業試験場相馬支場

直播栽培等新技術の導入と地域特性を活かした米づくりを進めよう！

いもち病防除と低温時の深水管理の徹底を！！

- - 生育は4日程度早い - -

当面する技術ポイント

今後の生育予想

- 1 年に比べ、草丈は長く、茎数が多い。7月に入り葉色の低下が著しいので、有効茎歩合の低下が予想される（表1）。
- 2 幼穂の発育は4日程度進んでおり、平坦部の初星・ひとめぼれ及びいわき南部のコシヒカリ、山間部のまいひめは、7月10日前後に幼穂形成期に達し、減数分裂期は7月3・4半旬と予想される（表4）。一方、相双のコシヒカリの幼穂形成期は7月20日頃と予想される。

いもち病防除及び害虫対策

- 1 葉いもちは各地で発生が確認され、進展型病斑も多いので、今後も防除を徹底する（表3）。
- 2 葉いもちは6月中に散布した水田では、薬効の切れる時期にきており、散布剤等で予防的に防除を行う。
- 3 穂いもちは用粒剤を散布予定の場合は、剤及び生育ステージを確認して、適期に散布する。
- 4 カメムシ類の常発地及び前年の多発地では、畦畔の草刈（出穂前10日までに）及び防除を行う。
- 5 海岸沿いの葉色の濃い圃場や直播圃場では、イネツトムシの発生に注意し、適期に防除する。

低温対策

- 1 20℃以下の低温が予想される場合は、深水管理で対応する。
- 2 深水管理の水深は、幼穂形成期は5～10cm、減数分裂期は15～20cm必要である。

倒伏防止のための診断と対策

- 1 浜通り各地ともコシヒカリの草丈はほとんどが70cm台と長く、生育の進みを考え合わせても、今後倒伏が懸念される。
- 2 コシヒカリの穗肥適期は7月6半旬と予想されるが、栄養診断に基づいて、施用の時期・量を決定する（表5）。また、追肥を行う場合は、必ずいもち防除も併せ行う。
- 3 幼穂形成期の草丈が75cm以上あるコシヒカリは、倒伏軽減剤の施用を検討する（表6）。

直播栽培のポイント

A 直播共通

- 1 葉いもちや紋枯病、イネツトムシの発生に注意し、適期に防除する。
また、粒剤等による穂いもち防除にあたっては、移植栽培より生育ステージが遅いので注意する。
- 2 幼穂形成期（7月中旬）以降低温が予想される場合は、移植栽培に準じて深水管理を行う。

B 湿水直播

- 1 中干しは幼穂形成期まで継続し、移植栽培より強めに行う。
- 2 穗肥は幼穂形成期～減数分裂期に行うが、葉色が濃い場合や株元が不安定な場合、苗立ちが過剰な場合は穂肥を遅らせるか施用しない。

C 乾田直播

- 1 中干しは行わず、浅水～間断灌漑を継続する。
- 2 穗肥は幼穂形成期に行うが、葉色の低下が著しい場合には補肥を施用する。

大豆作のポイント

- 1 明渠の補修や新たな設置により湿害対策を万全とする。
- 2 生育過剰な圃場を除き、最終培土時に肥効調節型肥料（70日タイプ）を用いてN6kg/10a追肥する。
- 3 アブラムシや食葉性害虫の発生に注意し、的確に防除する。

気象経過と今後の予想

1 気象経過：6月下旬以降気温は高めに推移したが、7月2半旬は低めに経過。

2 今後の予想

7月17日～7月23日：冷たい高気圧に覆われ、平均気温は低いでしょう。

7月24日～8月6日：曇りや雨の日が多く、平均気温は平年並みでしょう。

生育状況

表1 生育状況（相馬支場、各普及センター作柄判定圃）

品種名	年次	7月15日		出葉	各地域普及センター		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)
		草丈 (cm)	葉数 (葉)		茎数 (本/m ²)	葉色 (日)	11葉	判定圃場
初 星	1999	72.6	10.4	767	35.6	7.13	原鹿本年	69.4
	1998	72.3	10.0	700	38.0	7.14	島平年	61.4
	平年	68.9	10.3	661	39.3	7.11	飯本年	60.4
ひとめぼれ	1999	71.7	10.5	788	35.8	7.10	町館前年	59.6
	1998	68.9	10.4	631	38.8	7.11	双浪本年	64.8
	平年	65.5	10.5	651	40.5	7.10	江平年	57.0
コシヒカリ	1999	73.6	10.2	762	32.3	7.13	葛本年	50.4
	1998	70.0	10.3	507	35.4	7.12	葉尾前年	47.4
	1994	73.4	10.8	676	33.5	7. 6	い勿本年	74.7
コシヒカリ	1990	75.0	10.8	740	-	7. 5	わ来平年	63.3
	1987	62.8	10.7	774	-	7. 9	き三本年	59.0
	平年	68.8	10.5	586	36.1	7. 9	和平年	56.8
								627

特記事項

作柄判定圃の品種

飯館、葛尾：まいひめ

三和：初星

その他：コシヒカリ

作柄判定圃の調査月日

原町 7月12日 双葉 7月5日

いわき 7月14日

相馬支場の生育

草丈は長く、葉色は淡い。

幼穂形成は4日程度早い。

止葉葉数は少なくなる見込み。

管内の生育

生育は進み、草丈は長い。

葉色は全般に淡い。

表2 直播圃場の生育概況（品種：ひとめぼれ 7月12～14日調査）

調査地	点	直	播	の	年次	播種期	苗立数	茎数	草丈	葉数	特記事項
		種	類		(月日)	(本/m ²)	(本/m ²)	(cm)	(葉)		
農試相馬支場	早播	乾田条播	1999	4.15	176	614	52.5	10.1			
			1998	4.20	188	676	63.7	10.4			
原町市高	標準播	乾田条播	1999	4.23	217	647	50.9	9.4			
			1998	4.23	178	555	58.3	9.8			
相馬市柏崎		乾田条播	1999	4.16	143	593	48.6	9.4			
		乾田条播	1998	4.23	162	621	55.5	9.7			
浪江町立野		湛水条播	1999	5. 6	65	392	40.4	-			
いわき市大浦		乾田条播	1999	4.17	231	782	56.2	-	7/5調査	コシヒカリ	
		湛水条播	1999	4.30	77	535	48.0	-			

当面する技術ポイントの基礎データ

表3 浜通りの葉いもち発生状況

調査地点	調査発生	発生	発生
	圃場数	圃場数	圃場率
北 部	30	11	37
中 部	24	3	13
南 部	12	8	67
山 間 部	24	0	0

表4 本年の出穂期予想（農試相馬）

品種名	幼穂形成始期	幼穂形成期	減 数	出穂期
	本年	平年	本年	平年
初 星	7. 4	7. 9	7. 6	7.12 (7.15-7.19) (7.29) 8. 4
ひとめぼれ	7. 7	7.10	7.10	7.14 (7.19-7.23) (8. 2) 8. 6
コシヒカリ	(7.17)	7.20	(7.20)	7.23 (7.29-8. 2) (8.12) 8.15

注) 幼穂形成始期は幼穂長1mm、幼穂形成期は2mmに主茎の80%が達した日

表5 穂肥の目安(幼穂形成期)

品種名	草丈 (cm)	葉色 S502	ヨード澱粉 反応(%)	施用時期 (出穂前)	施用量 (kg/10a)
ひとめぼれ	60以下	37以下	50以上	-25	1.5~2.0
コシヒカリ	70以下	36以下	55以上	-15	1.0~2.0

表6 倒伏程度2以上の危険域

品種名	生育ステージ	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 S502
ひとめぼれ	幼穂形成期	65 <	840 <	40 <
ひとめぼれ	減数分裂期	70 <	800 <	41 <
コシヒカリ	幼穂形成期	75 <	650 <	36 <

あぜ道

先日、作物担当職員と水稻生育調査に同行した折り、あぜ道で多くのヘビに遭遇した。小生のように気の小さい者にとって、その度に身の縮まる思いをしたが、やがて先入観から繩や紐までがヘビに思われるようになってしまった有様だ。

しかし、直播栽培のイネはどうだろう。出芽直後は鳥害など悩みの種は多かったはずだが、7月の声を聞いたと思うと、移植のイネに劣らないほどの生育にまで至った。直播のイネは、相当気が強いと見える。この分だと今年の秋は期待が持てそうだ。

(何事もやってみないと気が済まない男 いわき地域農業改良普及センター S.S.)